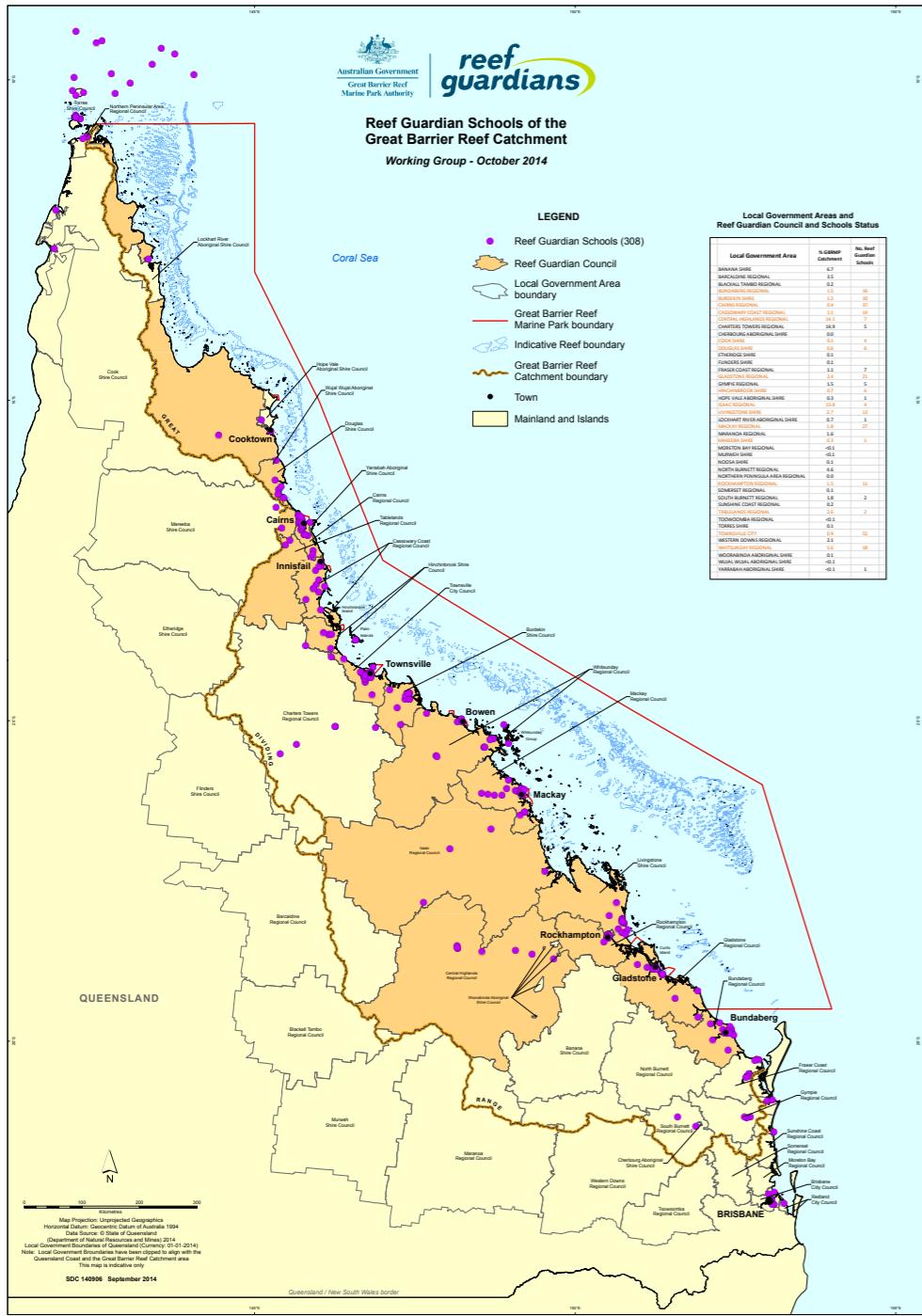


オーストラリア

グレートバリアリーフにおけるサンゴ礁の守り人プログラム（2003年より継続中）
Reef Guardian Stewardship Program



プロジェクトエリア：
クイーンズランド州のグレートバリアリーフとそこに接続する流域

プロジェクトの主たる実施者

グレートバリアリーフ海洋公園局

プロジェクトのその他の主要な関係者

対象地域の学校、地方政府、商業漁業、農業、畜産農家

プロジェクトの目標

サンゴ礁の健全性やレジリエンスの向上に資する地域コミュニティが主体となった管理体制の構築を目指しています。この管理体制を通じて、グレートバリアリーフの集水域の地域コミュニティに属する人々が、自らの行動が及ぼすグレートバリアリーフへの影響に関する理解の上で、将来にわたって生態系サービスを享受できる環境づくりに向けた積極的な管理を実施することを目指します。

プロジェクト概要

「サンゴ礁の守り人プログラム」は、陸域における人間の活動がサンゴ礁に及ぼす影響をテーマに、GBRMPAが小学生向けの副教材を作成したことから始まりました。GBRMPAがこの副教材を有志の教員や学校に提供する代わりに、学校からは、サンゴ礁を守るために取組をまとめた行動計画を提出してもらいました。行動計画には、副教材を用いた学習時間を設けることはもとより、学校の食堂でのプラスチックの使用削減に努めることや、学校敷地内の排水溝に「この排水溝はグレートバリアリーフにつながっています」と書かれた看板を立ててポイ捨ての抑制を行うこと等、実践的な取組も盛り込まれることになっています。GBRMPAが行動計画を承認すると、「サンゴ礁の守り人のメンバー校」として認定されます。

認定された小学校の児童の進学に伴い、中学・高校へも「サンゴ礁の守り人プログラム」が広がり、また、子供達が学校で学んだことを家庭に持ち帰ることにより、グレートバリアリーフを守る意識が親世代にも広がりを見せています。

当初このプログラムは学校を対象とした教育普及プログラムとして成功を収めましたが、2007年にはこのプログラムを活用して、各地の地方公共団体にも「サンゴ礁の守り人委員会」が設置されるようになりました。各自治体により委員会の構成員や具体的な活動内容は異なりますが、それぞれが抱えている問題や状況に応じて、川や海の水質向上、廃棄物や土地の管理、地域コミュニティへの普及啓発、持続可能な人口増加や環境に配慮した開発等の行動計画を GBRMPA に提案するなど、「サンゴ礁の守り人」としてグレートバリアリーフの保全に大きく貢献しています。

さらに2011年には、漁業者、農業者及び畜産業者を対象にしたプログラムもスタートしました。これは、グレートバリアリーフへの負荷の軽減を目指し、法律の規制以上の取組を自主的に進めるものです。具体的には、各事業者が独自に行っているサンゴ礁の保全に有効な取組を互いに共有し、他の事業者にも積極的に参加を促す仕組みとなっています。

本プログラムでは、サンゴ礁の持つ美しい景観や、生態学的、文化的、そして経済的な価値を守りたいという、地域の人々の潜在的な願いを引き出すことで、地域コミュニティによる管理体制の構築を推進しています。



子供たちは、有機廃棄物の堆肥化や園芸利用を通して栽培した農作物を校内の売店や学校行事で利用することにより、エコロジカル・フットプリント（人間活動が環境に与える負荷）の軽減に取り組んでいます

これまでの達成状況・成果

このプロジェクトによって、これまでに次の成果を上げることができました。

- 310の学校から計127,000人以上の生徒と8,000人以上の教員が「サンゴ礁の守り人プログラム」に参加し、各校で行動計画が策定され、これに基づく様々な取組が行われています。
- グレートバリアリーフの集水域の60%をカバーし、人口計90万人を擁する16の地方公共団体が、「サンゴ礁の守り人」として承認されました。
- グレートバリアリーフ海洋公園を拠点にしている漁業者による、法律の遵守以上の自主的な取組が評価され、17の団体が「サンゴ礁の守り人」として認定されました。こうした取組は、漁業にとっても重要な海洋環境の健全性の維持に貢献しています。
- 農業分野においても、沿岸域の生態系の健全性を保つため、流出する物質の管理など、様々な試みや工夫が始まっています。

プロジェクトの立ち上げから得られた教訓

このプログラムを通じ、次のような教訓が得られました。

- プログラムの策定に当たっては、立案段階から関係者を交えることが有効でした。関係者と協働・連携してプログラムを立案・実施することにより、プログラム参加者にとって活動内容がより身近で価値あるものになり、サンゴ礁の保全管理に対する市民の関心を高め、さらなる参加拡大につながりました。
- 「サンゴ礁の守り人プログラム」の活動は、サンゴ礁とその周辺の生態系とのつながりに関する理解を促進し、サンゴ礁のもたらす恵みに対する感謝の思いを育む機会となりました。また、グレートバリアリーフを守りたいという意識を高め、そうした人々が連携し情報を共有することで、行動による環境への影響を理解し、より良い行動の選択につながりました。
- 実践的な活動を通じて、各地域におけるサンゴ礁を守るために長期的なビジョンが構築されました。個人単位でも、責任ある行動をにより、サンゴ礁が育む文化を維持していくことに貢献できることがわかりました。

プロジェクトのはじまり

世界自然遺産にも登録されているオーストラリアのグレートバリアリーフの集水域は、約35の河川流域で構成されており、クイーンズランド州の面積のおよそ25%に当たる424,000km²から水が運ばれ、海に流れ込みます。この広大な集水域における人間の様々な活動は、グレートバリアリーフのサンゴ礁の健全性と密接なつながりがあり、地域コミュニティがこのつながりを理解することは、将来にわたってグレートバリアリーフを守っていくために重要です。

そこでグレートバリアリーフ海洋公園局(GBRMPA)は、小学校を対象に「サンゴ礁の守り人プログラム」(Reef Guardian Stewardship Program)を立ち上げました。プログラム開始から10年を超え、現在では地域の中学校や高校にも広がり、さらに地方政府公共団体、漁業者や農業関係者にも及んでいます。